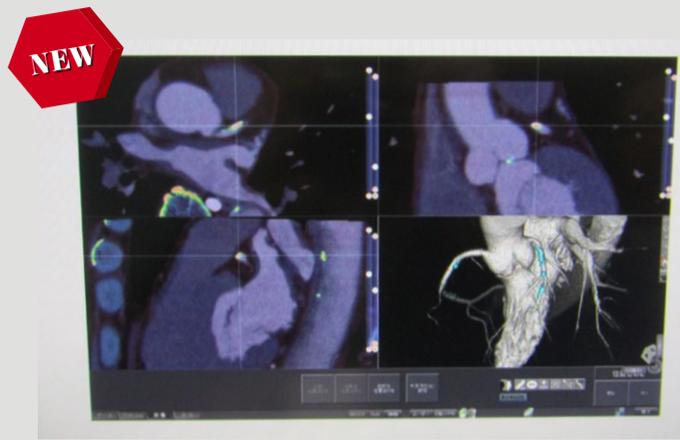


**テーマ Ziostation2 can find your way!**

同社は例年、特徴的なブースデザインが目目を引くが、今年はシアター風のレイアウトだった。ブースの手前に「Ziostation2」などの概要等を紹介する機器、奥に最新アプリケーション体験用の機器を設置し、来場者を迎え入れていた。

**3D医用画像処理ワークステーション  
「Ziostation2」**
**CT解析オプション  
「CT冠動脈石灰化  
サブトラクション」**

「Ziostation2 Version2.4」は、2016年2月以降リリースしたバージョンに搭載されている最新アプリケーションを中心に紹介。その1つがCT解析オプションの『CT冠動脈石灰化サブトラクション』である。これは非剛体の位置合わせによるサブトラクションであり、CTで撮影した冠動脈の造影前後のシリーズをサブトラクションし、結果画像をVRとMIPで表示する。冠動脈の単純フェーズと造影フェーズを独自のアルゴリズムでレジストレーションし、造影フェーズの血管の形状と単純フェーズの石灰化の形状により位置合わせを行う。これにより、動体においても正確な位

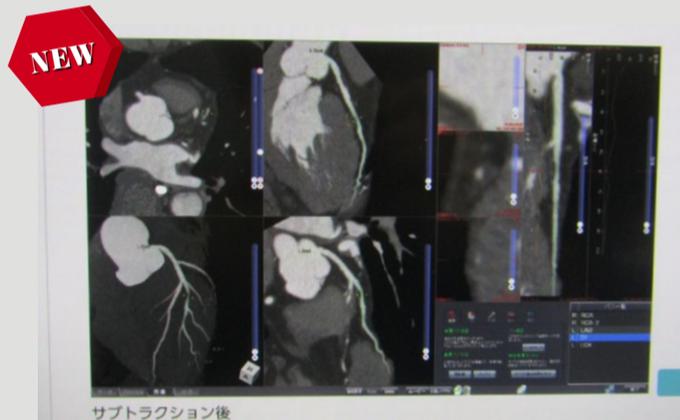


CT冠動脈石灰化サブトラクション

置合わせが可能となる。また、データの一部領域を指定した上での局所非剛体位置合わせも可能。臨床においては、石灰化領域を除いた血管の短軸断面の観察や狭窄率の評価などの活用が期待できる。

**CT解析オプション  
「CT冠動脈比較解析」**

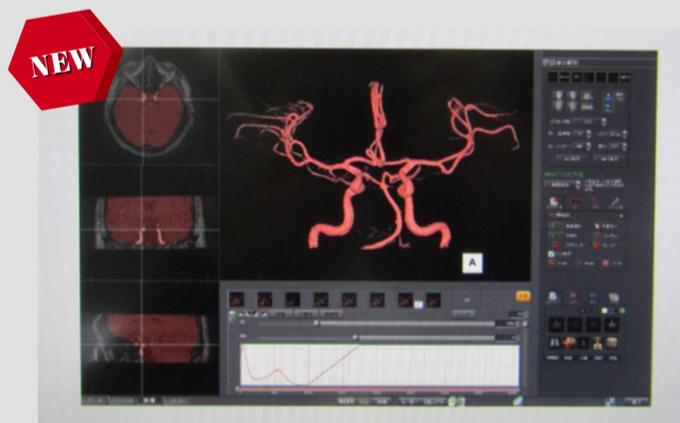
CT解析オプションにもう1つ新たに加わったのが『CT冠動脈比較解析』である。同アプリケーションは、CT冠動脈石灰化サブトラクション前後のデータから冠動脈を自動的に抽出し、比較表示するというもの。その際、最大20シリーズのデータ読み込みが可能であり、冠動脈の血管パスを各シリーズで共用し比較観察・解析ができる。また、抽出した血管をクリックするだけでCPR、ストレートビュー、短軸像の表示が可能。位相や再構成関数の異なるデータを同時に読み込むこともできる。これらの効果により、従来は困難だった造影された内腔もきれいに除去できるようになり、細部の血管の描出も可能となる。



CT冠動脈比較解析

**MRI解析オプション  
「頭部MRA解析」**

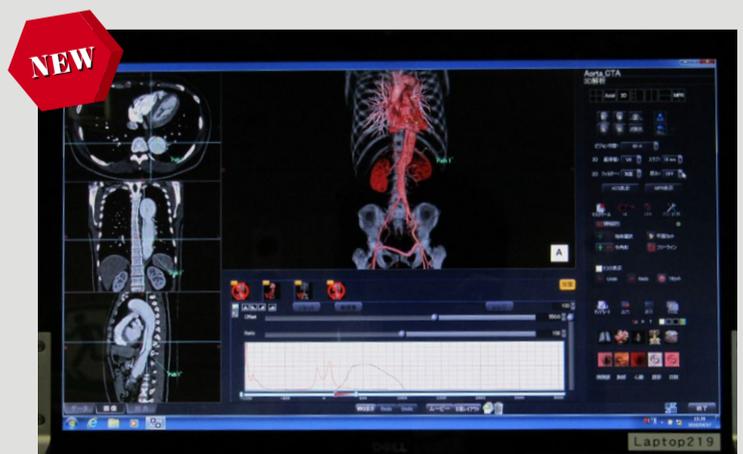
MRI解析オプションには『頭部MRA解析』を追加。従来は診療放射線技師がMIP画像での観察に必要なマスクを手動で頭部MRAのデータから抽出していたが、その作業の自動化を実現したアプリケーションである。自動抽出は2種類に対応しており、血管周囲のみ抽出する従来の手動カットモード、および脳実質の全てを抽出する全脳抽出モードを搭載。同アプリの活用により、頭部MRAにおける画像作成時間の短縮効果が期待できる。また、各医療機関で設定した出力マクロの組み合わせによって、画像作成から出力までの作業支援も可能となる。



頭部MRA解析

**3D医用画像処理ソフトウェア  
「ZioCube」**

「Ziostation」の医用画像処理の基本機能を簡素化し、医療機関にある既存のPC端末にインストールして活用できる3D医用画像処理ソフトウェア(医療機器認証品)を、ITEM初展示。同ソフトは2015年10月に発売された。アキシャル・コロナル・サジタル、MIPやMRP、VRなどの2D / 3D表示やROI・SUV・CTRなどの各種計測機能、カラーマップ表示や2Dフュージョン、最大4シリーズ比較表示、最大4つまでのマスクボリュームなどの機能を有している。個人向けと法人向けとがあり、同社サイトからのダウンロード販売となる。クリニックや小規模病院向けのソフトで、臨床現場はもとより研究・教育ツールとしての活用を想定。



ZioCube